

全播磨硬式野球団が中学野球日本一を目指す

これまで中学生の硬式野球は、7つのリーグが別々の全国大会を開催してききましたが、すべてのリーグが一つの大会で日本一を競う「第1回全日本中学野球選手権大会 シヤイアンツカップ」が新たに設立され、8月13日(月)に東京ドームで開会式を行いました。



▲各市町から、より上のレベルで野球がしたくて集まったメンバーたち



『お父さんと一緒に手作りミニ四駆レーサー大会』 8月12日(日)、中央公民館で親子のふれあいをテーマに「ミニ四駆レーサー大会」を開催しました。子どもたちは自分のマシンの勇姿に「ヤッター、スゴイ」と歓声があがり大満足。ホールでは、自分のマシンの順番を待っている親子にかき氷を食べてもらい、また、違った一面の笑顔。親子ともレースに時間を忘れて熱中し、楽しくうれい親子のふれあいが持てました。

播磨中・播磨南中、陸上部から全国大会へ3人出場

中学陸上全国大会(第34回全日本中学校陸上競技選手権大会)が、8月20日(月)23日(木)に宮城県で開催されるにあたり、出場が決まった播磨中学校と播磨南中学校の選手3人が、町長を表敬訪問しました。



▲橋岡くん(前列中央)は、小学生のとき町の陸上教室に参加していました ▲福富さん(前列左)も秋本くん(前列中央)も、コンディションは良好

第21回「市民防災のつどい」

9月8日(土) 女性分団員8人が播磨町連合婦人会の皆さんと共に、加古川左岸河川敷多目的広場を会場として、企業と地域住民、消防が一体となり実施した市民防災のつどいに参加しました。「防災博士」「防火合言葉」などの競技に参加しました。



東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル) 播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

10月の放送予定 (収録場所 稲美町)

前半 10月1日(月)~14日(日)

- 特集 たかさご万灯祭 (高砂市)
●ふれあいインフォメーション (各市町からのお知らせ)

後半 10月15日(月)~28日(日)

- 特集 郷土資料館特別展 (播磨町)
●ゆうゆうライフ (加古川市)

放送時間 (第1・3月曜日の①以外は再放送) 30分番組

- 月・水・金 ①午前10時 ②午後5時 ③午後10時
火・木 ①正午 ②午後7時
土・日 ①午前9時 ②午後6時 ③午後11時

わんぱくはりまっ子



河内 楓子ちゃん(4歳)、桜子ちゃん(7歳)、柚季くん(2歳) 古宮

きょうだい仲良かったすけあっていってね。(パパ・ママより)

募集 このコーナーに出る「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話をお願いします。

楽屋裏

いつの間にかセミの音が聞こえなくなり、夜には秋の虫が鳴き始めました。暑さも和らぎ、すいぶんと過ごしやすくなって、夏が苦手な私にはうれしい季節がやってきました。今年の夏の暑さは格別だったような気がします。そんな暑さの中、大阪では熱戦が繰り広げられましたね。世界陸上。いったんテレビをつけると、毎日注目競技が目白押し。初めて見る競技も多く、我が家でも楽しくテレビ観戦をしました。1シーン1シーンが印象的で、1つのことに必死で打ち込んでいる選手の姿には心打たれました。スポーツといえば、各学校の運動会。この広報が発行されるのはちょうど終わった頃でしょうか。それぞれの家庭にもすてきな1シーンが誕生したのでしょうか。

播磨町長 清水ひろ子

いいね! はりま

町政レポート No.9



▲河川監視カメラ起動スイッチを入れました

涼しくなって、朝夕は凌ぎやすくなりました。仲秋の前半の頃を「白露」というそうです。秋の深まりを感じさせるような清々しい季語ですね。町内には、白露が似合う秋のおすすめスポットもたくさんあります。お気に入りの場所を見つけてくださいね。■9月3日からご利用いただけるようになった大中遺跡公園の駐車場から、考古博物館に向かって池の中に通路が伸びています。その狐狸ヶ池の水面に絶滅が危惧されている「オニバス」が出現しました。考古博物館の開館を祝っているかのようなタイミングのよさに驚いています。貴重な水辺であるため池を次世代にいい形で引き継いでいくためにも「オニバス」の今後を見守っていきたくと思います。

■9月3日からBAN-BANテレビで、水田川と喜瀬川に設置された河川監視カメラが稼働し始めました。(交通情報チャンネルで放映しています) 播磨町は海に面し、1級河川の水田川と2級河川の喜瀬川が町の中を流れていますので、水害は昔から大きな関心事です。家に居ながらにして河川の水位や状況が把握できれば、避難や対策なども迅速にでき、被害を最小限に食い止めることができるのではと思います。また、役場庁舎内では24時間、モニターに河川の状況が映し出されていますので、災害時の初動体制、避難勧告なども適確にできるものと思っています。同時に、BAN-BANテレビと播磨町の間で「災害時における緊急放送の協力に関する協定」を交わしました。今後、町のさらなる安全・安心に繋がるよう活用していきたいと思っています。

■9月4日から9月定例会が始まりました。議場の様子を1階ロビーの大型テレビで生中継しています。12月議会からはインターネットでも配信し、タイムリーにありのままをお届けしたいと思っています。議会での審議を知っていただくことで、多くの方が町政に関心を持っていただければ幸いです。

親子で楽しむ町内の文化財

パートII

7 佛性寺の六地藏

今回は二子地区の佛性寺に向かいます。ここには、作られた年代の分かる播磨町内で最古の六地藏がおります。



▲影の変化で表情が変わります



「クイズ」
なぜ作られた年が分かったのでしょうか。

- ① 横に年号が彫られている
- ② いわれを書いた文書がある
- ③ その年だけの方法で彫られている

「歴史の宝石箱」と言われている播磨町。町の面積は狭いけど、文化財の数は多く、少し歩けばそこかしこに、地域の人びとが昔から大切に受け継いできたものがあります。そのような街角の文化財を紹介していきます。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000

二子地区の落ち着いた小径を、新幹線を過ぎ明姫幹線へと向かいます。こんもりとした茂みの一角に佛性寺が見えてきます。門を入ると参道に促されて、西へと進みます。本堂にあいさつをしながら、さらに奥のお堂まで行きますと、西の角に、高さ50センチほどの花崗岩が2つ置かれています。そして、1つの石に3体ずつお地藏さんが彫られています。計6体のお地藏さんは全体に浅い彫りですが、お顔の表情はとも豊かで、小さな頭に、目、鼻、口が丁寧に彫られています。すました顔、おどけた顔、にこやかな顔。やがて影の動きとともに表情が変わり、見ていて飽きないです。

さらに、石の右端をよく見ると、かすかに「寛文五年」（1665年）と年号がみえます。これで、播磨町内の年号のあるお地藏さんの中では、最も古いものとわかります。六地藏は、人が死後、六道（地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天上）のどこに振り分けられても救いの手を差しのばすために、それぞれ道のにおられる仏様です。だから、お墓の入り口に六地藏が作られる場合が多いです。ところが、このお地藏さんたちは、なぜか、墓のない奥のお堂の前におられます。では、なぜここに。その訳は、もとは二子地区の墓地におられたのだが、明姫幹線にかかったため、ここへ移されたこと。

おかげで、この六地藏さんは、今も町の歴史を刻む大切な資料として、来る人にいろいろなことを語っております。



●クイズの答 ① 横に年号が彫られている



町の人口 9月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,303人(-28人)

男...16,798人(-15人)

女...17,505人(-13人)

世帯数...13,241(-9)